

広聴広報委員会視察報告概要

【宮城県仙台市】

- 1 視察日時 令和5年11月15日（水）
午後1時30分から午後3時まで
- 2 視察先及び視察事項
 - ・視察先 宮城県仙台市議会
 - ・視察事項 「子ども議会（議会体験プログラム）」について
- 3 参加委員
委員長 秋田 孝 副委員長 石本 亮三
中井 めぐみ、花岡 健太、長谷川 礼奈、大久保 竜一、松本 明信、大庭 祥照、
前田 浩昭、谷口 雅典、亀山 恭子、中 毅志
- 4 視察の目的
本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会活動の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会などの取組を中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、議会報告会でワールドカフェ方式での市民との意見交換を行っている。また、昨年度は初の取組として、若い世代の声を聴き、市政に反映する契機とするため、市内高校と連携し、高校生との意見交換会を開催するなど、若年層を対象とした広聴広報活動をスタートさせた。
仙台市議会では、政治への興味を持ってもらい議会を身近に感じてもらうため、未来を担う小学5年生から高校3年生までの児童生徒に、市政や議会など政治に関心を深めてもらうことを目的に、常任委員会と本会議の審議をロールプレイ形式で行うなど、体験型の子ども議会を開催しており、この取組について視察し、今後の委員会としての若年層に向けた広聴広報活動の参考とするため視察を行った。
- 5 視察の概要
仙台市議会事務局調査課長による歓迎の挨拶の後、調査課からの視察事項の説明、質疑応答が行われた。

6 概要説明

仙台市議会では、市議会だより作成やインターネット議会中継等、議会広報に係る様々な決定を9名で構成される広報委員会が行っており、子ども議会の運営も所管している。

【目的】

子どもたちに議会を身近に感じてもらうとともに、市議会に対する初歩的な理解をより深めてもらう。

【経緯・変遷】

平成14年度の広報委員会で検討を開始し、参議院特別体験プログラムを視察して、仙台市版の子ども議会としてロールプレイ形式で実施するようになった。

シナリオは教育委員会の助言を得ながら広報委員会で作成しており、現在は子どもが身近に分かるよう、学校建設を題材にしている。平成15年4月1日から令和5年3月31日までの間に、延べ60回開催している。

平成14年 広報委員会で検討開始。

平成15年 テーマを「敬老乗車証条例について」、「男女共同参画推進条例について」として、シナリオ形式で開催。

平成17年 特定のテーマについて児童生徒が自由に議論する方式を広報委員会で検討。
テーマ「小学校工事契約について」を追加。

平成18年 特定のテーマについて市当局に質疑したり意見を述べたりする「自由討論方式」を試行的に実施（自由討論方式は試行のみとなった）。

平成28年 模擬委員会・模擬本会議における反対討論役をシナリオに追加し、採決において賛成、反対を児童生徒の判断で行うこととする。

平成30年 本会議場で児童生徒の氏名を表記できるよう氏名標の型紙を作成。
事前に児童生徒の氏名を記入してもらい、実際の氏名標に重ねて使用する。

令和2年 新型コロナウイルス感染症対策のため、プログラムを3クラスに分けてローテーションさせる方法で実施。

【概要】

実施日：本会議・常任委員会などの開催日、年末年始、祝日などを除く平日

所要時間：1時間30分から2時間程度

対象：市内小学校5年生から高校3年生までの団体

※以前は対象学年を中学校3年生までとしていたが、平成25年度より高校3年生まで拡大し、

従来の議員への質問に加えて市当局への質問の時間を設けた。令和4年度は高校が参加している。

応募方法：電話、ファックス、メール

広報：仙台市議会ホームページに掲載。年に1回市内小中学校、高校及び中等教育学校にパンフレットを送付。子ども会の行事としての申込みもある。

子ども議会では、常任委員会と本会議の審議を、議会や当局の役割を演じるロールプレイ形式で体験する。当日の内容は以下のとおり。

- ・市議会の概要説明（用語、市民・市長・市議会の関係、議会の流れ、議案、委員会、広報、インターネット議会中継）

- ・模擬委員会

シナリオ「小学校工事契約に関する件」、「男女共同参画推進条例」（中高生以上向け）に沿って委員長（司会・進行）、委員（議案に関する質問・討論）、教育長（議案の提案理由説明・答弁）の配役で常任委員会を実施し、他の参加者は傍聴者として見学する。途中で司会（事務局）が進行を止めて、用語の説明・補足をしながら進める。

- ・模擬本会議

議長（司会・進行）、市民教育委員長（市民教育委員会の審査の報告）、討論議員（議案に賛成1人、反対1人）、議員（議案の起立採決に参加）の配役で本会議を実施する。途中で司会が進行を止めて、用語の説明・補足をしながら進める。

- ・広報委員との懇談・意見交換

過去に出た質問には、議員の任期が4年の理由、閉会中の活動、可決した議案に市民が反対した場合はどうするか、議員になって良かったと思うこと、休日の過ごし方などがある。

- ・模擬投票

選挙管理委員会がPRとして実施している。県立の視覚支援学校が子ども議会に参加した際は、点字器を使用した。

【効果・課題】

アンケートでは、委員会、本会議の内容が理解できたという項目について、96%以上の児童生徒が「よく分かった」、「まあまあ分かった」と答えており、おおむね好評を得ている。

また、模擬投票については、アンケートで「18歳になったら選挙に行きたい」という感想があった。模擬投票体験により、地元のことを決めるのは議会であり、市民の代表を決めるのは自分たちであると理解することで、選挙行動にも寄与していると考えられる。

課題としては、参加する団体が特定の学校に固定されていることがある。また、参加者全員に役割があり、かつ分かりやすいシナリオや、特別支援学校に対応できるシナリオの作成が必要と

考えられる。

7 質疑応答

質疑 模擬投票は好評ながら毎回行っていないのはなぜか。

応答 オプションとしてあることは学校に伝えていますが、時間の都合等により希望されないことがあるためです。また、選挙期間等の繁忙期と重なると選挙管理委員会で対応できないこともあります。

質疑 参加する学校が固定化されているのは、教員の関心の有無によるものと思われるが、教育委員会に働きかけるといいのではないか。

応答 案内は教育委員会にも出していますが、さらなる協力を依頼して参加学校が広がるようにしていきたいです。また、学校は2～3月頃に年間行事を決めており、それに間に合うように1月末頃に案内を送っています。

質疑 案内の発送は委員会か事務局のどちらでやっているのか。

応答 事務局です。

質疑 子どもたちによる議会の傍聴を検討したことはあるか。

応答 傍聴について検討したことはありません。子ども議会の中でインターネット議会中継の映像を流すことはあります。

質疑 平成15年から続けている事業のため、当時の参加者は成人していると思うが、主権者意識が育って投票率が上がったという結果など、住民自治における良い傾向はあるか。

応答 令和5年7月の仙台市議会議員選挙の投票率は34.3%と低い結果でした。仙台は大学等の学校が多いため、学生の投票を促すことが重要と選挙管理委員会は考えています。子ども議会が選挙の投票につながったかどうかを把握するのは難しいですが、きっかけにはなると思います。

質疑 当日の運営は、広報委員会と事務局で行っているのか。

応答 調査課以外の職員の応援も得て、広報委員と事務局で運営しています。

質疑 広報委員との懇談で、議員の休日の過ごし方についての質問が多いとのことだったが、議会ではなく議員の個人的なことに対する質問ということか。

応答 そういった話もありますが、議員の任期や議案、議会活動に関する質問があります。

質疑 広報委員との懇談で、市政に対する子どもたちの要望を聞くことはあるか。

応答 要望を聞くことはありません。

質疑 子どもたちの要望を聞いて、模擬議会で取り扱うことは検討したことがあるか。

応答 平成18年に、特定のテーマについての自由討論方式を試行したことはあります。しかし、子ども議会の目的はまず議会の仕組みを理解することであると広報委員会で話があり、現状はロールプレイング方式で行っています。全国市議会議長会で他都市の取組を見ると、請願に取り組んでいる議会もあるらしく、今後広報委員会でも議論になると思います。

質疑 令和4年度に仙台高校が参加しているが、きっかけは何か。

応答 特段の働きかけをしたわけではありません。

質疑 問合わせのきっかけとして将来官僚や議員を目指している高校生がいることはあるか。

応答 令和4年から高校で公民が必修になったことはきっかけになっているかもしれませんが。また、ホームページを見ての申込みもあると思います。

質疑 平成25年度から対象者を高校3年生まで拡大して、従来の議員への質問に加えて市当局への質問の時間を設けているが、どういった流れで行っているのか。

応答 市当局への質問をシナリオの中に入れたもので、実際に市当局を呼ぶことはしていません。

質疑 所沢市議会では年に4回議会報告会を行うことを要綱で定めているが、仙台市議会では子ども議会に全く申込みがない場合も問題ないのか。

応答 ここ数年で申込みのない年はありません。申込状況については広報委員会に報告しており、もし0件の場合は案内等について検討するようになると思います。

質疑 学校に関係なく個人での申込みを公募したことはあるか。

応答 学校等の団体の申込み以外を募ったことはありません。学校から申込みがあった場合は事前にシナリオを送付して、可能であればロールプレイングの練習をしてから参加するよう依頼しているため、個人からの申込みは難しいと思います。

質疑 議案への賛成・反対の数は。

応答 その場で子どもたちが判断して起立採決するため、賛成が大多数のこともあれば、賛成・反対がほぼ同数のこともあります。学校のカラーによっても違うことがあります。広報委員からは賛成・反対が割れるようなシナリオの作り方にすべきという意見もあります。

質疑 広報委員以外からの意見等はあるか。

応答 子ども議会については広報委員会が所管しているため、広報委員が当日の対応と振り返りをしています。会派内で出た話を広報委員会に出すことはあるかもしれませんが。

質疑 広報委員会の関わり方は。

応答 子ども議会の立案は広報委員会で行い、実務的な部分は役割分担をして行っています。

質疑 子ども議会により請願や若い人の傍聴が増えたといった効果はあるか。

応答 7月に改選があり、傍聴者数は多くなっていますが、子ども議会の効果かどうかは分かりません。若い人の傍聴は増えています。

質疑 過去に子ども議会に参加して、現在仙台市議会の議員になっている方はいるか。

応答 話を聞いたことはありません。個人情報観点で、終了後に氏名等は学校に返すため、参加した児童生徒の氏名を把握はしていません。

質疑 小中学校で実際に選挙を行って議員を選出し、予算をつけて子ども議会で使い方を議論する自治体が増えているが、仙台市議会で検討したことはあるか。

応答 特に話を聞いてはいません。

8 委員長所感

子ども議会を始めてから20年ほど経つが、子ども議会に参加し仙台市で市議会議員や行政職員になった方がおそらくいると思う。しかし、その追跡調査を行うことは難しいと思うが、何かしらの形で子ども議会に参加した児童生徒のその後がわかるような仕組みづくりができればより素晴らしいものになると感じた。

【山形県山形市】

1 視察日時 令和5年11月16日（木）
午前10時から午前11時30分まで

2 視察先及び視察事項

- ・視察先 山形県山形市議会
- ・視察事項 議会報の取組
視覚障がい者向け議会報ダイジェスト版
議場を活用した議会報告会、議場演奏会

3 参加委員

委員長 秋田 孝 副委員長 石本 亮三
中井 めぐみ、花岡 健太、長谷川 礼奈、大久保 竜一、松本 明信、大庭 祥照、
前田 浩昭、谷口 雅典、亀山 恭子、中 毅志

4 視察の目的

本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会活動の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会などの取組を中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、議会報告会でワールドカフェ方式での市民との意見交換を行っている。また、昨年度は初の取組として、若い世代の声を聴き、市政に反映する契機とするため、市内高校と連携し、高校生との意見交換会を開催するなど、若年層を対象とした広聴広報活動をスタートさせた。

山形市議会の市議会報「みちしるべ」は、中核市議会議長会議会報コンクールで3年連続での受賞や小中学校の授業で活用されるなど、分かりやすく市民に親しんでもらえる議会報の作成に取り組んでいる。また、視覚障がい者向けの議会報ダイジェスト版は、点字版、声の議会報、音声コード版があり、声の議会報では市内の高等学校放送部に協力してもらい、作成している。これらの取組について視察し、今後の委員会としての幅広い層に向けた広聴広報活動の参考とするため視察を行った。

5 視察の概要

山形市議会事務局次長兼議事課長による歓迎の挨拶の後、議事課から視察事項の説明、質疑応答が行われた。

6 概要説明

【やまがた市議会報「みちしるべ」】

山形市議会の議会報は、山形市議会報発行規定に基づき昭和42年にタブロイド判で創刊した。平成9年にはA4版でのレイアウト変更を行い、現在は4色刷りとなっている。発行は年4回（2，5，8，11月）で、改選年は臨時号を発行（6月1日）している。令和5年8月1日発行225号の発行部数は104,000部で、自治推進委員等を通じて全戸配布している。

令和5年度当初予算では、印刷製本費1,631万5,000円、報償費518万2,000円、委託料12万8,000円を計上している。

平成25年12月から平成27年3月までの間、より開かれた議会を目指す議会改革の取組の一環として、市民から手に取ってもらい、親しんでもらえる議会報とするため、リニューアルに向けて議会報委員会で協議を重ね、平成27年5月1日に全ページ4色刷りのリニューアル号を発行した。

リニューアルに当たり、公募により愛称を「みちしるべ」とした。募集の際のコンセプトを「開かれた議会活動」、「山形市らしさ」、「親しみやすさ」とし、411作品の応募から、議会事務局・議会報委員会による選定及び全議員からのアンケートを踏まえて決定した。

また、コンセプトを表現したタイトルのデザインを東北芸術工科大学に依頼し、学生から応募された作品から議会報委員会で協議して決定した。

さらに、全ページをカラー化し、表紙の全面を写真化した。また、ホワイトスペースの多用、見出し等の工夫、イラスト・写真の多用等といったレイアウト変更を行った。写真については、なるべく現場の写真を使用している。

平成31年4月1日に山形市が中核市へ移行したことから、令和2年から中核市議会議長会議会報コンクールに参加し、令和2年に優秀賞、令和3年に特別賞、令和4年に最優秀賞を受賞した。受賞後も随時見直しを行い、一般質問の記事のレイアウト変更等の改善をしている。

編集に当たっては、定例会開会1週間前に審議案件を確認し、レイアウト作成と特集記事作成を行っている。定例会初日に一般質問を行う議員（8名）が確定し、担当職員を決めている。委員会の記事は委員長報告をもとに作成している。定例会終了後に、議決結果の一覧表等を作成している。

表紙写真は、事務局から案を複数提示し、広報広聴委員会で選定している。季節感を重視した写真を複数作成するため、普段から写真を撮っている。

補正予算、常任委員会、請願・陳情、意見書、人事案件、議決案件一覧、一般質問等の

おおまかな掲載内容は固定されているが、定例会前の審議案件を確認する段階で審議時間等を想定し、特集記事の掲載量も含めてレイアウトを調整している。

特集記事は、レイアウト調整の段階で分量を検討している。市政の注目ポイントを紹介する「市政トピックス」、議会用語解説、「はながたベニちゃんの議会あれこれ」、直近の議会活動の紹介等を掲載している。

紙面作成に当たっては、適切なホワイトスペースを確保し、新聞に使われる用字用語を用いている。略称等は正式名称とし、内容が変わらないように留意しながら読み手に分かりやすい文言に置き換えている。また、「〇〇〇について」「〇〇〇において」「〇〇〇による」「〇〇〇に係る」は使わないこととしている。難しい用語等は脚注で補足し、「はながたベニちゃんの議会あれこれ」で議会用語を説明している。執行部の答弁のうち、特に重要な部分は青文字で強調している。

今後の課題としては、脚注にて新たな用語を解説しているが、近年頭文字をとった用語（Ma a S、DMC等）が多く、説明文が長くなり、スペース確保が難しいことがある。

【視覚障がい者向け議会報】

市議会報のダイジェスト版を、声の議会報、点字版、音声コード版により作成し、希望者に配布している。

声の議会報は、原稿の吹き込みを市内高校の放送部に依頼している。

点字版は、点字訳のボランティア団体に委託して作成している。

音声コード版は、はがき大のシートに印字した音声コードを、読取器テルミーで音声流すものである。

また、令和5年8月1日号からは、印刷業者から納入されるテキストデータをワードの読み上げ機能を用いて音読させて録音した全文版を作成している。

【議場を活用した議会報告会、議場演奏会】

〈議会報告会〉

平成25年に施行した山形市議会基本条例に基づき、議会報告会をコミュニティセンターや公民館を会場に開催していたが、平成30年11月に議会基本条例を検証し、さらなる市民参加の促進と多様な市民意見の把握のため、開催時期や内容を見直していくこととした。

令和4年11月4日に、議場を会場として、会場とオンライン（Zoom）のハイブリット方式で議会報告会を開催した。全議員が、1部（昼）と2部（夜）に分かれて出席し、定例会・委員会の報告のほか、議員との意見交換を行った。1部に19人（うちオンライ

ン1人)、2部に26人の参加者があった。

令和5年度からは、議会運営委員会で行っていた実施内容の検討を広報広聴委員会で行うこととし、広報広聴委員を増員した。令和6年2月6日に、議場演奏会と併せた議会報告会の開催を予定している。議場とオンラインで行い、9月・12月定例会と各委員会の報告のほか、議会報告会の冒頭に「議会のしくみ」について解説する。また、議場ディスプレイを活用する。

周知については、令和4・5年度は、広報やまがた、議会報「みちしるべ」、ホームページ、公民館・コミュニティセンターへのポスター掲出にて行っている。

〈議場演奏会〉

市民に市議会をより身近に感じてもらい、市議会に対する理解と関心を深める機会として、議場見学会と議場演奏会を実施することを平成29年に決定した。

第1回(平成29年)では、選挙権年齢の引き下げに伴い高校生枠を設けた。第2回(平成30年)及び第3回(令和元年)では、見学と併せて鑑賞できるよう議会棟にある美術品を廊下に展示した。第4回(令和3年)は、新型コロナウイルス感染症対策のため演奏会のみ実施した。第5回(令和5年)はコロナ対策を講じながら、議会棟の見学と併せて行った。演奏会では弦楽四重奏等が演奏されている。

令和6年2月には、議会報告会と併せての議場演奏会を予定している。

令和5年度予算では、山形交響楽団との業務委託契約のため、委託料13万2,000円を計上している。

〈議場平和コンサート・議会棟見学会〉

ウクライナ紛争により国際情勢が不安定になる中、G7サミットが令和5年5月に被爆地広島で開催され、非核平和への機運が高まっている。このことから、昭和59年3月に全国に先駆けて平和都市宣言を議決した山形市議会本会議場において、被爆ピアノを活用したコンサートを令和5年10月20日に初開催した。また、市議会に対する理解と関心を深める機会として議会棟の見学を併せて実施した。

7 質疑応答

質疑 議会報のホワイトスペースの確保はどのように決めているのか。

応答 初期のレイアウト作成時に決めています。山形県市議会議長会での議会報研修会の講師によると、山形県寒河江市はさらに大胆にホワイトスペースをとっているとのこと。

質疑 議会報臨時号の議員名簿には最終学歴等のかなり詳しい内容が掲載されているが、以前から決められていることなのか。

応答 令和5年の改選に当たり、議員名簿の掲載内容について事務局から提案し、広報広聴委員からは、近年の迷惑行為から掲載しない選択肢があった方がいいのではという意見がありました。それを受けて議会運営委員会でも協議し、住所・電話番号・生年月日については、各議員の希望によるということになりましたが、実際には全議員から全ての項目について掲載の意向がありました。最終学歴については、以前から掲載しており、今回も議会運営委員会で協議したところ、市民の方への情報提供として掲載するべきということになりました。

質疑 一般質問が1定例会ごとに8人というのは、正副議長を除いた31人が年に1回ずつ行うということか。

応答 一人年1回は一般質問できるようになっています。改選直後の定例会では新人議員が行うこととなっています。

質疑 一般質問の持ち時間は。

応答 申し合わせにより、質問・答弁合わせて1時間です。

質疑 議場演奏会は毎回山形交響楽団に依頼しているのか。

応答 山形のような地方都市にある交響楽団は珍しく、市民の方に知っていただきたいということもあり、毎回依頼しています。

質疑 一般質問は一人当たり年1回となるが、タイムリーなことを聞きたいときなど、執行部に対して文書で質問をすることはあるか。

応答 今までに文書で質問した事例はありません。

質疑 議会報や議場演奏会等に対して思いを持って取り組んでいるように思うが、創意工夫のエネルギーやモチベーションはどこから来ているのか。

応答 議会報については広報広聴委員会で編集会議をしています。また、山形県市議会議長会の研修で講師から指摘を頂き、広報広聴委員会と事務局で情報共有していることで、気運が上がっていることはあると思います。

質疑 議会報についての市民からの反応は。

応答 表紙になった公園についての問い合わせ等がありました。また、一般質問の記事では実際に質問している際の写真を使っており、コロナの時期はマスクをしているため、顔が分かりづらいという意見がありました。その際は広報広聴委員会で協議して、ライブ感を大切にするため、マスクをしていても質問時の写真を使うということになりました。

質疑 議会報について、市の広報誌等への影響はあるか。

応答 2年程前に広報やまがたもリニューアルしており、そちらは写真を小さめに使い、

ホワイトスペースを多めにとっています。

質疑 議会報の愛称の選定時に市民からの意見を聞いたことはあるか。

応答 特にありません。

質疑 音声コード版視覚障がい者向け議会報の読取器テルミーは市民に配布しているのか。

応答 各自で購入しているものです。

質疑 被爆ピアノの演奏会は毎年行うのか。

応答 市議会での演奏は令和5年が初めてです。実行委員会は過去に演奏会を行っていたようです。

質疑 議会報の編集会議は何回行っているか。

応答 広報広聴委員会での編集会議は1号につき1回です。

8 委員長所感

山形市議会の市議会報「みちしるべ」は、中核市議会議長会議会報コンクールで最優秀賞を受賞するなど大変参考になった。また、議会事務局職員の市議会報に取り組む姿勢に感銘を受けた。